

SONORA NX

新聞用刷版の 無処理化を推進

株式会社静岡新聞総合印刷



新聞印刷向け完全無処理 CTP プレート SONORA NX の製品化に開発パートナーとして協力。約1年間の検証作業のあと実運用をスタートし、キズ・汚れのない高品質印刷と安定出力を実現。

進取の精神で新聞印刷技術を先導

株式会社静岡新聞総合印刷は、2010年に静岡新聞社の印刷局が分社化して生まれた総合印刷会社である。静岡新聞は全国の新聞社に先駆けて新聞のカラー印刷に取り組み、1964年の東京オリンピックでは連日カラー写真を掲載し好評を博した。以来「カラーの静岡新聞」として、同社のカラー印刷技術は業界トップクラスと認められている。WAN-IFRA主催の国際新聞カラー品質コンテストでも3度の入賞を果たすなど、その品質は折り紙付きだ。1990年代には1台で両面8ページのカラー印刷が可能なタワープレスを共同開発し、今日の新聞印刷の潮流を生み出している。苦勞をいとわず、つねに先進的な技術の確

「視認性、耐刷性にすぐれ、安心して運用でき、出力時間も短縮できました」

立に全精力を傾ける進取の精神は、今に至るまで「静新 SBS グループ」のDNAとして社員一人ひとりに脈々と受け継がれている。近年ではBCP対策の一環として「刷版の無処理化」にも取り組み、製版部門の一部ではすでに無処理版の導入も果たしている。ただ安定供給を旨とする新聞社の資材調達には複数社が基本であり、新たな無処理版の開発が不可欠だった。



代表取締役社長 大石 信吉 氏



印刷部 専任部長 西澤 隆司 氏



管理部 天野 和将 氏



5台のCTPを運用する製版部門



7台の高速タワー型輪転機を擁する印刷工場



SONORA NXの開発パートナーとして協力

新しい無処理版を必要とする同社の要望に応えたのが、コダックだった。DIC グラフィクス（株）を窓口に、新聞印刷向け完全無処理 CTP プレート KODAK SONORA NX の開発パートナーとして協力を依頼したのである。この申し出を快諾した理由について、代表取締役社長の大石信吉氏は次のように話している。

「コダック製無処理版の供給は当社の希望でもありました。長年、有処理版を使ってきて信頼もしていたので、喜んで協力させていただきました。新製品の開発段階からメーカーと共に検証し様々な課題を解決していくことは、やりがいのある、とても楽しい挑戦です。たとえ苦労が多くても社員の勉強になるし、当社の要望を反映しやすくなるというメリットもあります」

進取の精神を社風とする同社にとってコダックとの共同開発は、まさに絶好のチャンスだったのだ。2017年初頭からはじまった SONORA NX の共同検証は約1年間に及んだ。静岡新聞での実運用を目指すだけでなく、新聞業界全体が認める製品をゼロから開発する気概で徹底した検証を重ね、刷版性能を高めていった。出力テストや印刷テストも幾度となく実施し、ときにはコダック群馬工場の研究開発スタッフが現場のテストに立ち会うこともあったという。その結果「元旦の紙面は SONORA NX で刷りたい」という大石社長の希望通り、2017年12月、遂に SONORA NX の実運用がスタートした。

エッジ汚れがなく、耐傷性にすぐれていると高く評価

実運用に際しては、有処理版用 CTP の1台を無処理版用に切り替え、自動現像機の上にはバスコンベアを設置した。これにより同社の製版部門にある CTP 5台のうち3台が現像レスになった。運用開始から半年が経った今、SONORA NX は静岡新聞本紙の朝・夕刊、日曜版別刷りなどの印刷に毎日使われ、耐刷実績は32万部（16万 imp.）を超えている。印刷部 専任部長の西澤隆司氏は、SONORA NX の使い勝手を次のように話してくれた。

「整面性や耐傷性については他の刷版と比べて大きな違いはありません。ただエッジ汚れは SONORA NX が最も少なく、安心して使うことができます。キズ付きの心配もなく取扱いが容易で刷版業務が楽になりました。印刷品質も水が絞れると好評です」

製版工程を担当する管理部の天野和将氏は、SONORA NX の視認性の良さを挙げている。

「SONORA NX はこれまでの無処理版と比べて視認性にすぐれています。そのうえインクジェットで版情報を印字していますので、版掛けのミスもなくなり、とても安心して運用できています」

さらに現像工程がなくなることで「出力時間が短縮できた」と天野氏は無処理版ならではのメリットを指摘する。現像という不安定なアナログ工程がないので、刷版品質も安定する。電源を入れるとすぐに刷版が出力できるのも大きな魅力のひとつだ。これまでは下版後すぐに刷版を出力していたが、印刷直前の出力でも間にあうようになった。編集待ちがなくなり朝刊担当の残業も減っているという。もちろん現像液・薬液の購入費、保守費用などがゼロになるため、コスト削減効果も非常に大きい。

一歩先ゆく確かなイノベーションを提供

SONORA NX の実用化によって、同社の BCP 対策はまた一歩前進した。地震の影響を受けやすい有処理ラインがひとつ減り、資材の備蓄負担も軽くなった。有処理版がすべてなくなるのも時間の問題だろう。今後の課題は刷版運用の自由度を高めることだと大石社長は次のように指摘する。

「今は SONORA NX 用のラインと他社版用のラインが固定化されていますが、CTP 版の区別なく自由に出力できるようになれば、運用の幅が広がります。今後はメーカー同士での競争原理が働き、開発サイクルも短くなると思うので楽しみですね」

すでにコダックでは機材メーカーと共にベンダーの改良にも着手。位置決め用 LED のデュアル化で共用化のニーズにも応えようとしている。合紙レスについても、すでに検証が終わり7月中旬には実運用がはじまる予定だ。コダックは印刷現場のニーズをつねに把握しながら、いち早く製品改善を進めることで、64万部の販売部数を誇る静岡最大の「県紙」を支えている。



株式会社静岡新聞総合印刷

代表取締役社長：大石 信吉

〒422-8033 静岡市駿河区登呂 3-1-1

静岡新聞制作センター内

TEL：054-284-9044（代表）

<http://printing.shizuokaonline.com/>

この印刷物は、KODAK SONORA プロセスフリープレートを使用して印刷しています。

コダック 合同会社

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285（営業代表）

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2018-07

